

阿蘇地域におけるトールフェスク優良品種「ウシブエ」の特性

「ウシブエ」の生育特性と収量性は、県奨励品種「サザンクロス」におけるそれらと比較して、同程度並みもしくは優れており、「ウシブエ」は阿蘇地域における中生のトールフェスク品種として有望である。

農業研究センター 草地畜産研究所 (担当者: 藤岡智佳)

研究のねらい

飼料自給率の向上を図るには、粗飼料の自給が極めて重要な位置を占めており、自給飼料の生産拡大に資する地域に適応した高品質多収な牧草・飼料作物の品種選定が不可欠である。本試験では、熊本県阿蘇地域で栽培されている寒地型牧草の主要草種であるトールフェスクのうち、公立場所育成品種で有望視される新品種「ウシブエ」について、県奨励品種「サザンクロス」を比較品種として品種比較試験を実施し、優良品種を選定する。

研究の成果

1. 「ウシブエ」の乾物収量は、放牧利用においては「サザンクロス」と同等であり、ASP 草地利用 (秋期備蓄草地、採草・放牧兼用草地) においては「サザンクロス」よりも優れる (図 1、2)。
2. 「ウシブエ」の出穂期および出穂始めは、「サザンクロス」よりもやや早めの中生である (表 1、2)。
3. 「ウシブエ」の越冬性および越夏性は、「サザンクロス」と同程度である (表 1、2)。
4. 「ウシブエ」の病害発生の程度は、「サザンクロス」と同程度である (表 1、2)。
5. 「ウシブエ」の秋の被度は、「サザンクロス」よりもやや優れる (表 1、2)。

普及上の留意点

1. 本成果は、標高 900m、年平均気温 11℃、年間降水量 3,095mm の自然条件で得られたものである。
2. 本成果は、完全更新法を用いて草地造成し、追肥は年間施用量 N : P₂O₅ : K₂O = 15 : 10 : 15kg/10a を散布して得られたものである。

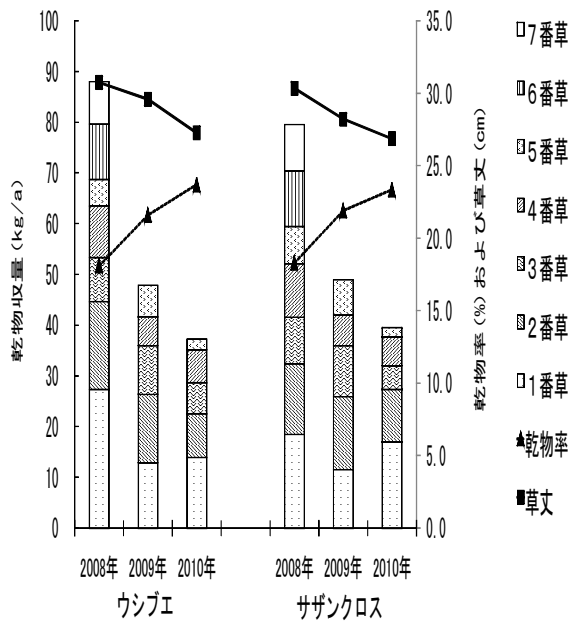


図1 放牧利用想定における乾物収量の推移

注) 播種日は、2007年10月3日、0.2kg/aを散播。年間施用量は、N:P₂O₅:K₂O=15:10:15kg/10a。
 収量調査時期は、比較品種「サザンクロス」の草丈が平均25~30cmに伸長した時点を目安に実施。

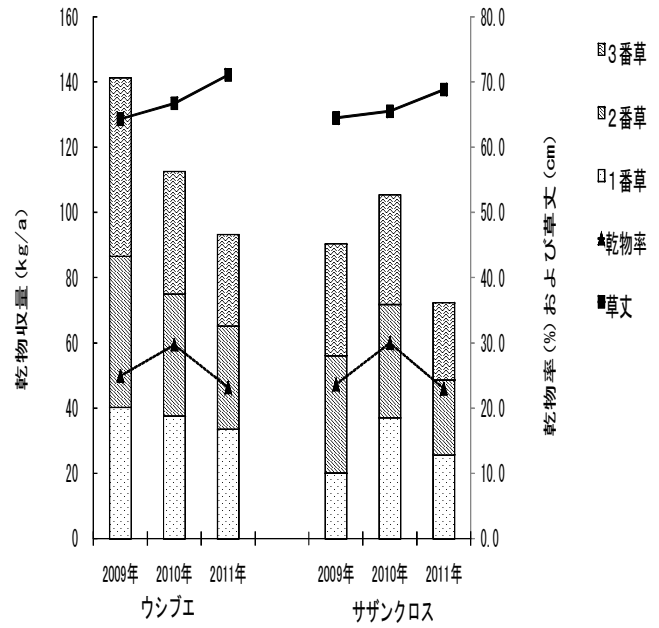


図2 ASP草地利用想定における乾物収量の推移

1) 乾物収量については、品種間にp<0.01の有意差あり。

注) 播種日は、2008年9月25日、0.2kg/aを散播。年間施用量は、N:P₂O₅:K₂O=15:10:15kg/10a。
 収量調査時期は、1番草：出穂期、2番草：各草種の1番草から60~75日後および3番草：ASP草地の入牧開始時期(11月末~12月上旬)を目安に実施。

表1 放牧利用想定における生育特性

品種名	出穂期 ¹⁾			越冬性 ^{2、3)}			病害程度 ⁴⁾				秋の被度 ⁵⁾		
	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年	いもち病	斑点病	緑枯病	網斑病	2008年	2009年	2010年
ウシブエ	5/15	5/8	5/9	7.0	9.0	7.0	3.0	3.7	2.2	2.0	63.3	50.0	30.0
サザンクロス (比較品種)	5/24	5/11	5/12	7.0	9.0	7.0	3.0	3.1	1.7	2.0	53.3	46.7	26.7

- 1) 試験区全体の5割程度出穂に達した月日。
- 2) 極不良1、極良9とする評点法。
- 3) 早春の葉枯れ程度の多少により評点。
- 4) 極微1、甚9とする評点法。調査3カ年の平均値。
- 5) 最終年次における最終刈り取り後の被度(%)を調査。

表2 ASP草地利用想定における生育特性

品種名	発芽良否 ¹⁾	出穂始め ²⁾			越夏性 ¹⁾			病害程度 ³⁾			秋の被度 ⁴⁾	雑草程度 ⁵⁾
		2009年	2010年	2011年	2009年	2010年	2011年	斑点病	網斑病	葉腐病		
ウシブエ	7.7	4/28	5/5	5/9	7.6	7.0	6.2	2.8	3.1	2.6	45.0	29.0
サザンクロス (比較品種)	4.3	5/7	5/7	5/9	7.4	6.7	6.3	2.8	3.2	2.4	35.0	40.4

- 1) 極不良1、極良9とする評点法。調査日は、発芽良否：播種後20~25日頃、越夏性：9月中旬頃。
- 2) 1㎡当たり3本前後が出穂に達した月日。
- 3) 極微1、甚9とする評点法。調査3カ年の平均値。
- 4) 最終年次における最終刈り取り後の被度(%)を調査。
- 5) 最終年次における各収量調査時の雑草生重比率を平均したもの(%)。